



原っ子つうしん

教育目標：～自らの可能性に挑戦する活力ある原っ子～

令和4年

9月6日（火）

印西市立原小学校

校長室便り

〈第5号〉



9月1日、長かった夏休みが終わり、原小学校に元気な子どもたちが戻ってきました。5名の転入生を迎え、全校児童 1,120 名での第2学期スタートです。どの学級からも夏休みの楽しかった思い出や、頑張った経験談などを発表する声が聞こえてきました。目を輝かせて話をする子どもたちの様子から、充実した夏休みを過ごしたことがよくわかりました。

また、所狭しと並べられた夏休みの作品の数々…。子どもたちの頑張った姿が伺えます。どんなことに興味や関心をもったのか、どれだけ愛着をもって制作や自由研究に取り組んだのかが伝わってきました。

さて、昨年度から行われていた校舎の増築工事も無事に終わりました。通学路の変更や校庭の使用制限等で大変ご迷惑をおかけしました。保護者や地域の皆様のご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。今回増築された校舎には、現2年生（6学級）と、つばき学級が入ります。それに伴い、4年生及び5年生の一部の学級は、配置換えすることになりました。詳しくは、学校だより「山ゆり」をご覧ください。



希望の言葉

先週の2学期始業式で、私は以下のように児童に話しました。

私が高校3年生だったある日、担任の先生との個人面談がありました。そこで、担任の先生は、「なあ寺島、将来はどんな仕事をしたいんだ?」と聞いてきました。私は、「小学校の先生になりたいと思っています。」と答えました。すると、先生は、「そうか…今、先生になるのは難しいなあ。100人中1人くらいしかねないぞ。」と言いました。その言葉を聞いた私は、「そうですか…」と少し落ち込みました。しかし、続けて先生は、「でもな、寺島、100人中の1人になればいいんだ。」と言ってくれました。

私は、その担任の先生の言葉を信じて、何があってもあきらめず努力していこうと心に決めました。そして、ついに小学校の先生になることができました。私は、今でも、その担任の先生の言葉を「希望の言葉」として大切にしています。

これまでの人生を振り返ると、私は様々な言葉によって励まされ、勇気づけられてきました。その言葉は、本の言葉であったり、歌の歌詞であったり、いろいろです。私は運が良いことに、上記のとおり高校3年生の時、「希望の言葉」に出会いました。私たち教師の言葉というものは、時に、その子の人生を左右する力をもつ場合があります。従って、私たち教職員は、子どもへ発する言葉の重みを自覚し、責任をもっていかなければならないと思うのです。